お餅の気持ち

○

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
お餅の気持ち

【Ｎコード】
Ｎ４５０１Ｄ

【作者名】
○

【あらすじ】
こたつに入ってお餅を食べよう。劇場「すぽっと」のお題小説です。

洋一はコタツに入り、目の前の餅を眺めていた。
一人暮らしの寒々とした部屋の中、焼きあがったばかりの餅の温もりが洋一の顔に伝わる。
「ふう」
洋一は両手もコタツに入れたまま、目の前の餅をただ眺めていた。
皿の上の餅に視線をあわせたまま、洋一は片手だけコタツから抜いて箸を手に取る。
洋一の箸はまだ熱を持った餅をつつき、ひねり、つまむ。
ぼんやりとした目で餅を眺めながら、洋一の口が独り言を繰り出す。
「ひょっとして、これ気持いいんじゃないか？」
洋一はコタツから出るとズボンを

（中略）

「しっかりしてください！」
救急車の車内では、救急隊員が青色吐息の洋一に向かって懸命に話し掛けていた。
苦悶の表情を浮かべ、息を荒げる洋一。
「ヒッヒッフー」
「落ち着いてください！　それはラマーズ法です！」
錯乱している洋一の呼吸に、救急隊員の突っ込みが容赦なく入る。
「はあはあ……俺、死ぬのかな……」
「死ねません！」
異様な状況が救急隊員の言い間違いか本音か分からない発言を引き出す。
「はあはあ……俺、生まれ変わったら女になるんだ……もうこんな

目にあいたくない」
「大丈夫！　すぐになれますよ！」
異様な状況が救急隊員の正常な判断力を奪いまくる。
「ありがとう……がんばるよ」
洋一もいい感じに錯乱しているので話は交差する事無くスムーズに通り抜けていく。
悲劇と喜劇を乗せた救急車は、非日常から脱出すべく最寄の病院に向かって力強く進むのだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4501d/

お餅の気持ち

2010年10月30日10時06分発行